

標準委員会 第36回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録

1. 日時 2017年8月29日(火) 13:30~16:30

2. 場所 5東洋海事ビル A+B 会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 萩原(部会長), 堺(幹事), 北島, 坂本, 佐々木, 佐田, 田中, 日比, 宮坂, 吉田(10名)

(代理委員) 瀧川聖絵(三菱総合研究所/松本), 安藤浩二(日立 GE ニュークリア・エナジー/木藤)(2名)

(欠席委員) 石川, 伊藤, 岡本, 越塚, 山口(5名)

(委員候補) 小野文彦(東京電力ホールディングス), 平野伸朗(関西電力)(2名)

(説明者) 【風洞実験実施基準分科会】佐田副主査, 【基盤応用・廃炉技術専門部会】萩原部会長, 堺幹事, 【用語辞典WG(標準活動基本戦略タスク)】田中委員, 【遮蔽材料標準作業会(放射線遮蔽分科会)】木村主査(5名)

(事務局) 中越, 谷井(2名)

4. 配付資料

ATC36-0 議事次第

ATC36-1 前回議事録(案)

ATC36-2 人事について

ATC36-3-1 “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”改定案の標準委員会決議投票結果について

ATC36-3-2 “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”改定案の標準委員会決議投票で受付けた意見への対応表

ATC36-4 部会・分科会・作業会の新任委員への説明・確認のお願い

ATC36-5 技術レポート・用語辞典案(H29.12最終報告)へのコメントへの対応(A班)

ATC36-6 分科会の活動状況について

ATC36-7 (提案)標準委員会専用サーバの今後について

ATC36-8 2017年秋の大会(9/13-15)企画セッション提案書

参考資料

ATC36-参考1 基盤・応用技術専門部会委員名簿

ATC36-参考2 標準委員会の活動状況

5. 議事内容

事務局から開始時点で委員17名中, 12名の出席があり, 委員会成立に必要な委員数(12名以上)を満足している旨, 報告された。

(1) 前回議事録(案)の確認(ATC36-1)

前回議事録(案)について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について(ATC36-2)

事務局からATC36-2に基づき, 専門部会及び分科会の人事についてそれぞれ下記の提案があり, 委員の退任が確認され, 審議の結果, 委員の選任等が決議された。

1) 専門部会

① 委員退任の確認

三本木 満（東京電力ホールディングス）
宿谷 弘行（テブコシステムズ）
伊阪 啓（関西電力）

② 委員の選任決議

小野 文彦（東京電力ホールディングス）
平野 伸朗（関西電力）

2) 分科会

① 委員退任の確認

【放射線遮蔽分科会】

黒澤 正彦（東芝）

② 委員選任の承認決議

【放射線遮蔽分科会】

廣内 崇幸（東芝）

【シミュレーション信頼性分科会】

工藤 義朗（電中研）

(3) 【報告・審議】 “発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準” 改定案の標準委員会決議投票結果及びその対応について（ATC36-3-1, ATC36-3-2）

事務局からATC36-3-1に基づいて、“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準”の標準改定原案が標準委員会決議投票で可決されたことが報告された。引続いて、風洞実験実施基準分科会の佐田副主査からATC36-3-2に基づいて、当該決議投票で受付けた意見への対応案が報告された。審議の結果、当該対応案は編集上の修正であり、対応案を標準委員会で報告することが決議された。

主な質疑等は次のとおり。

Q. コメントNo.5（△，□，○の凡例）では，“特に意味が無く”との回答になっているがその根拠を指摘すべきではないか。

A. 図中に示される値（Hs）に対応して識別できる旨の理由を回答する。

Q. コメントNo.8（閉塞率の制限値）では，記載することが“現状不可能”との回答になっているが，その根拠を丁寧に説明すべきではないか。

A. “技術的にまとまった知見に至っていないこと”，それに応じて“（制限を設けることは）時期尚早な段階”と回答を修正する。

A. 附属書（参考）は“（標準作成のガイドラインに記載の）理解又は利用を助けるための参考情報”であること，そのため“附属書（参考）にとどめる”との判断を回答に明記する。

(4) 【報告】 部会・分科会・作業会の新任委員への説明・確認のお願い（ATC36-3-4）

萩原基盤応用・廃炉技術専門部会長からATC36-3-4に基づいて，“部会・分科会・作業会の新任委員への説明・確認のお願い”について報告があった。

(5) 【報告】 技術レポート・用語辞典案（H29.12最終報告）へのコメントへの対応について（ATC36-3-5）

標準活動基本戦略タスク用語辞典WGの田中委員からATC36-3-4に基づいて，技術レポート・用語辞典案（H29.12最終報告）への当専門部会に関係するコメントへの対応について報告があった。

また、他の専門部会に係る箇所についてのコメント（回覧資料）として、“原子力発電所”を“原子力施設”と変更すること、将来的に複数ある定義の統一化を図ること、分野の名称に頭書きとしてついている“軽水炉の”は外し“基盤技術・廃止措置の分野”とすること、送りがなの付記について作成手引きに反映すること、今後用語の定義に英訳を付けることを標準の作成手引きに追加すること、さらに、“不確かさ”と“不確実さ”の扱いはリスク専門部会で検討が行われていることについて報告があった。尚、次回用語WGは11月2日に開催予定である。

(6) 【報告】 分科会の活動状況について (ATC36-3-6, ATC36-3-8)

各分科会代表等の関係者からATC36-3-6, ATC36-3-8に基づいて、分科会の活動状況について報告があった。

(放射線遮蔽分科会)

- ・遮蔽材料標準作業会では、遮蔽計算に用いる遮蔽コンクリートの組成に関する標準化を進めている。原子力学会の秋の大会では標準委員会の企画セッションとして、セッションの概要、(1)遮蔽要求部に用いられるコンクリートについて、(2)策定方法と付帯事項、及び(3)コンクリート材料変動に対する線量率影響検討の4部構成で、策定作業の概要を報告することが木村作業会主査より報告された。
- ・企画セッション内容及び配布資料へのコメントは特段なかった。
- ・次回の標準委員会で、企画セッションの概要を部会長から報告することにする。

(有効高さ評価モデル分科会)

- ・分科会開催に向けたコメントが出され、現状、次回の改定に向けて技術的知見の拡充を図っている準備段階である旨、説明した。
- 委員退任による活動への影響が大きいのであれば、風洞実験分科会との合併なども検討することを部会長からコメントした。

(7) 【提案】 (提案) 標準委員会専用サーバの今後について (ATC36-3-7)

事務局からATC36-3-7に基づいて、標準委員会専用サーバの今後について提案があった。

各委員、分科会主査から過去の配布資料（確定版）については共有して閲覧したいとの要望があった。

(8) 【報告】 標準策定5ヶ年計画の更新ガイドラインへのコメント依頼について

基盤応用・廃炉技術専門部会の堺幹事から標準策定5ヶ年計画の更新ガイドラインへのコメント依頼について報告があった。

主な質疑等は次のとおり。

Q リスク重要度のスクリーニングがこの部会それぞれの分科会にはなじまないように思える。

A スクリーニングは部会ごとに決めるという方針で動いている。当部会では分科会ごととなってもやむを得ないと考えている。ここは分科会でよく議論して欲しい点である。

Q 戦略的に標準策定をすすめる（大きな動きに対応してマイルストーンを決める）ということとはボトムアップからトップダウンに変更するということか？

A 標準の目的には原子力安全があるように、上位の目標を意識してすすめるということと理解して欲しい。5か年計画の書式も頭に上位目標の欄が追加されている。意識して作業するために“部会・分科会・作業会の新任委員への説明・確認のお願い”を配布した。

(9) 【講習】 “標準委員会 倫理規程の周知徹底活動 倫理規程” 等について

基盤応用・廃炉技術専門部会の萩原部会長から“標準委員会 倫理規程の周知徹底活動 倫理規程”及び“標準委員会の活動基本方針”について講習があった。

また、紹介事例に関して、特に“新知見”の標準への取込みについて委員間で議論を行った。

受講者：塚，北島，坂本，佐々木，佐田，田中，日比，宮坂，吉田，小野，平野（11名）

未受講者：石川，伊藤，岡本，木藤，松本，山口（5名）

ただし、岡本委員はシステム安全専門部会で、山口委員はリスク専門部会で受講済み。

(9) その他

・次回第37回基盤応用・廃炉技術専門部会は、12月1日(金)14:00から開催することになった。

以上